

# どんとと コミュニケーション



## 常識外れの時代

Vol.110

事故や犯罪も時代と共に変化してくるものです。昔では考えられないことが、最近では、よく起こります。

先日、函館で発生した交通事故では、歩道を歩いていた親子三人を背後から跳ね飛ばしたうえ被害者に馬乗りになって、さらに殴ったという事件がありました。被害者が加害者を殴ったというのは聞いたことがあります、加害者が被害者に対して、病院へ運ぶ代わりに、殴るといっちは聞いたことがあります。常識外れの出来事と言わざるを得ません。

誰でもよいから人を殺してみたかったというのも、よくニュースで耳にすることばです。殺される人はたまったものではありません。相手の立

場になって、考えることができないう人が増えているのでしょうか。さらに驚くのは、誰かを殺して、死刑になったかたというものです。自分では死に切れないので、他人を殺して死刑にして貰おうという考えです。誰だって死ぬのは怖いんだよと言ってやりたいくらいです。そして究極の事件が二件起こりました。一つはマレーシア航空機の行方不明事件です。たくさんの乗客、乗員を乗せたまま消息を絶ちました。全く連絡をせずに、各国のリーダー網をかいくぐり、おそらくインド洋に墜落したのだらうと言われています。それにしても機体の破片すら発見されないというのは、首をかしばざるを得ません。行

方がわからなくなった理由の真相は明らかになっていませんが、どうも機長が自殺をしようとしたのではないかとされています。

二つ目は、スペインからドイツに向かう旅客機がアルプスの山肌に激突して、百五十人も人が犠牲になった事件です。ボイスレコーダーなどの情報から驚くべきことが判明しました。機長がトイレに立ったあと、副機長が操縦室をロックして、自動操縦で機体を三十メートルの高さまで降下させるようセットしました。しかも途中、三回も加速させていました。機長の「ドアを開ける」という声や、金属のようなもので激しくドアをたたき音、乗客の悲鳴などが録音されていました。この状況を見ていた人達の絶望感には想像するだけでおそろしくなります。

副機長は病気があったかもしませんが、これらの事件は、他人をみちずれにするといい、今までに無かった恐ろしい考え方によって引き起こされたと言わざるを得ません。今後、このような事件の真似をする人が現れない事を望みます。常識ある社会に戻って欲しいものです。



Vol.137

### 忘れられる権利

「忘れられる権利」とは、インターネット上の個人情報やプライバシーの侵害、誹謗中傷や名誉棄損に苦しむ人が後を絶たないことから生まれた権利であり、記録に留められるべき条件を持たない過去の個人情報抹消する権利として提唱されました。(2012年、欧州連合(EU)が発表した「一般データ保護規則案」第17条に盛り込まれ、注目されました)

昨年、EU司法裁判所にて、フランス人女性やスペイン人男性が提訴し「忘れられる権利」があるとした判決が下され、グーグルにリンクの削除が命じられました。

その後、グーグルに多数の

削除依頼が殺到し、これに対応したため、多くの犯罪や不祥事に関するニュース記事が表示されない状態になりました。

特定の情報を削除することにより市民の「知る権利」が侵害されることにもなるため「忘れられる権利」と「知る権利」「表現の自由」の境界が今後の課題となっています。

この「忘れられる権利」の効果最も期待されるのが、リベンジポルノ問題です。

リベンジポルノとは、交際相手や元結婚相手によって撮影されたプライベート写真や映像が、悪意を持ってインターネット上に流出されてしまうことです。

日本でも深刻な問題となっており、東京都三鷹市で起きた殺人事件で注目されました。インターネットで投稿されたこれらの写真や映像は、検索が多ければ多いほど拡散し、削除が困難となります。

情報を一瞬で多数の人に伝えることができるインターネット。その伝達スピードや情報が、リスクになることを改めて認識し、利用について考えましょう。